

学校評価(共通項目)評価書

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定的評価は95.5%(昨年度94.3%、一昨年度91.1%)で、高水準を維持している。学校目標を意識して学校生活を送っている生徒が多いという。 保護者の評価も90.4%(昨年度91.2%、一昨年度90.4%)と肯定的な意見が多数を占める。保護者からの期待を裏切らないよう、引き続き組織的・計画的に教育活動を実施していく。 学校教育目標達成に向けた取組をさらに広く公表し、生徒一人一人が輝き、感動と笑顔あふれる学校を実現する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者のアンケートを重視しました。 生徒の高い評価を重視しましたが、低い評価にも心を配ってほしい。 目標達成に取り組んでいるとは思いますが、「組織的」かどうかは外からは不明である。 生徒・保護者で見ると評価を重視している。 学校教育目標に向け先生と生徒は頑張っている。コロナ禍の中での生活でマスク使用、手洗い、今年も良く出来ている。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。 (※いじめの未然防止と早期発見、再発防止等の組織的な対応を含む)	B	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の危機管理や安全・安心な学校づくりに対する意識は向上し、生徒は安心して学校生活を送っている。 コロナ対策も徹底して教育活動を行うことができた。 生徒評価は97.4%(昨年度92.9%、一昨年度93.4%)、保護者評価は87.1%(昨年度86.8%、一昨年度85.3%)が肯定的解答。保護者からの信頼をさらに高められるよう、安全対策の徹底と周知を行っている。 コロナ禍で行事等が制限されているが、安全・安心な学校づくりのために、学校・家庭・地域の連携を一層推進していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 毎年の避難訓練実施やコロナ対策もきちんと行われている。 生徒の高い評価を重視しましたが、低い評価にも心を配ってほしい。 ICTを利用した、不登校児の配慮等があるとよりよいと思う。 生徒が安心して生活しているのが良い。学校は安心安全である。危機管理が良い。コロナ対策も良く出来ている。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定的評価は96.3%(昨年度94.5%、一昨年度90.7%)、保護者は81.4%(昨年度80.7%、一昨年度81.5%)であった。保護者の信頼をさらに高めていくために、教員の授業力や資質向上に努める。 県学力学習状況調査では、全学年、全教科で県平均を上回ることができた。 ICT機器の有効活用にも努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者のアンケートが肯定的であり、書道・美術においても才能ある生徒が多い。 できる子にとっては無駄な宿題などがあり、できない子にとっては不十分な指導となっている部分が散見される。習熟度別に指導法を変えるべきと思考する。 コロナ禍の中でタブレットを使用して基礎学力をつけていた事がとても良く出来ている。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定的評価は96.6%(昨年度92.9%、一昨年度91.0%)、保護者は78.2%(昨年度75.5%、77.2%)であった。コロナ禍で授業公開に制限があるが、ICT機器の活用や学校ホームページ等を通して保護者に授業の様子を発信し、信頼を高めている。 全教師での重点目標徹底や「授業の5か条」に基づく授業改善の実施が、肯定的意見の向上につながっていると考えられる。 校内研修で、本校生徒の実態に基づいた学校課題を設定し、更なる授業改善や学力の向上を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の評価を重視。 「実態に基づいた授業改善」を行うべく、上記のとおり習熟度別、即ち児童生のレベルに合わせた個別の指導をすべきと思考する。 生徒が自由に意見を述べた。先生と話が取れていた。マスクの授業が早くなくなれば良いと思った。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定的評価は91.5%(昨年度88.3%、一昨年度84.6%)、保護者は82.6%(昨年度88.4%、一昨年度90.2%)が肯定的評価で、「規律ある態度」は定着してきている。 教職員は、本校の大きな特色の一つである「自主自立の態度」の育成を、より高いレベルを目指して進めている。 各委員会の取組により、生徒が自ら生活を見直すキャンペーン等が積極的に実施され、生活の改善につながっている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は3回しか学校を訪問しなかったため詳しくは分からないが、態度の悪い生徒を見ることはなかった。 生徒は自己評価ではなく、他の生徒を評価しているように思う。 そもそも「生活のルール」を構成する校則が明文化されていないため、教員のさじ加減による指導に偏っている部分がある。まずはルールたる校則とその改正方法の明文化が先ではないかと思う。そのプロセスを生徒が行うことこそ自治と思う。 挨拶が出来ている。通学時に生徒が横に広がる事が見受けられない。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定的評価は95.1%(昨年度91.5%、一昨年度89.4%)、保護者は88.5%(昨年度81.4%、一昨年度84.6%)が肯定的評価であり、教員の指導や改善に対し一定の評価は得られている。 毎週教育相談部会と生徒指導部会を開き、学年を越えて指導方針・指導方法の確認と情報共有を行った。 朝の活動を大切に、生徒が自分たちで静かに読書を始められる。朝読書指導を継続して行っている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今できる最善策を常に考えている。 授業態度に好感。教室も安心感がある。 まずは「規律」たる校則とその改正方法の明文化が先ではないか。感覚による指導では、規律ある態度の指導はできないと思う。 生徒と保護者と先生方とのつながりが良い。部活動での先生と野球、サッカーでの活動を見ると楽しくなる。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定的評価は92.3%(昨年度90.9%、一昨年度91.6%)、保護者は87.2%(昨年度90.3%、一昨年度91.4%)が肯定的評価であった。保護者の評価が下降傾向であるのは、コロナ禍のため体育の授業内容や部活動が制限されていることが影響しているものと考えられる。 体育授業で、準備運動時の工夫や体づくり運動の確保等を指導しており、意欲的に運動に取り組むことができるような生徒の育成が奏功している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 運動部活動が大会で活躍し頑張っている姿が想像できる。 体育の授業、寒い中でも生き生きと活動していた。 コロナ禍の中でのマスク使用が大変と思った。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定的評価は89.9%(昨年度90.0%、一昨年度86.7%)、保護者は80.1%(昨年度81.6%、一昨年度84.2%)が肯定的評価であった。この項目についても、コロナ禍で体育の授業内容や部活動が制限されていることが影響しているものと考えられる。 体育科を中心に体力向上策を立て、新体力テスト等への意欲的な取組等を計画的に進め、成果を上げている。 部活動指導では、コロナ禍の影響を受けながらも各部の課題を踏まえ工夫した練習・活動の実施に努めている。 引き続き体力向上コーナーやランキングの掲示等を活用し、生徒の頑張りを示すことで、生徒の意欲を向上させ課題解決に取り組む。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 校内ランキングを掲示することでやる気になる生徒もいれば、反対に自分なんてと思う生徒もいると思う。昨年より自分がどれだけ体力向上したのかわかるように向上率ランキングにすれば肯定感につながる。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定的評価は71.0%(昨年度76.8%、一昨年度78.9%)、保護者は72.5%(昨年度70.9%、一昨年度78.1%)が肯定的評価であった。 感染防止対策による体育大会の無観客実施、三中フェスタ・本校校区小中連携行事の2年連続中止、授業参観の縮小実施等の影響を受けている。 今後は出来る範囲で地域やPTAとの共催行事を復活させていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で様々な行事が縮小して行われ、学校は保護者や地域と連携をとりたくても出来なかった。 コロナ禍において学校の様子が伝わらない中、HPの更新が頻繁に行われるようになり、少しでも保護者や地域との連携を図ろうとしている。 コロナの関係で十分でなかったと思うが、保護者と話す場があった方が良かったと思った。
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定的評価は80.7%(昨年度83.3%、一昨年度85.7%)、保護者は83.3%(昨年度78.0%、一昨年度85.4%)が肯定的評価であった。 昨年度に続き、例年の通学路安全点検は実施できなかった。環境美化活動はPTA本部や多くの保護者と連携し実施することができた。今後もPTAや地域の方々に参加できるような取組方法を工夫し、学校・家庭・地域が連携して安全指導や生徒の健全育成を推進していく。 メール配信や学校ホームページ等、学校からの情報発信を丁寧に行い、より一層の協力体制づくりを行っていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 中学生の段階で薬物乱用防止について学ぶことは重要だと思う。性暴力(デートDV等)についても認識すべき年齢だと思う。三中の生徒はそんなことはないと思いますが、例えばズボン下ろし、スカートめくりも「ふざけてる」で終わりにせず、性暴力であることを認識してほしい。 コロナ禍において、なかなか難しい部分があると思う。 安全な学校と地域で話し合っ児童生徒の安全指導・健全育成を推進します。

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA~Dで記入

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満